

科目責任者 庄司 優 (薬効学教室)

■ 教育目的

臨床検査学の1分野としての臨床生理学だが、診断や病態の把握をするためにも必須の知識でもある。臨床検査技師をめざさなくとも知っておくと病態生理の理解や症例解析に役立つ知識が満載である。すでに3年の臨床分析学で総論的なことは学んでいるので、この講座では実際の症例を通じて具体的な応用とその解釈に重点をおく。つまり、疾患単位で臨床検査学を学ぶのが目的。

■ 学習到達目標

1. 臨床検査技師国家試験の生体機能検査（臨床生理学）の分野の問題に解答できる。
2. 検査手技と結果の解釈、患者ケアへの適応ができる。
3. 各検査法の適応疾患と限界（問題点）が説明できる。

■ 準備学習（予習・復習）

復習：重要事項をノートにまとめ、関連した国家試験の問題にチャレンジする

■ 授業内容

検査法の説明を受けた後、実際の検査の結果を評価する演習も行う。ビデオや写真などによって視覚的にも理解できるようにする。実際の国家試験の練習問題も行う

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	臨床生理学総論	国家試験の動向、生理検査とは	C14 (1) -2
2	循環器 1	循環系の解剖、生理、血圧、	C14 (1) -2
3	循環器 2	心電図（虚血性心疾患）負荷試験	C14 (1) -2
4	循環器 3	不整脈診断	C14 (1) -2
5	循環器 4	心電図演習	C14 (1) -2
6	循環器 5	心音図、心エコー、脈波、末梢循環 (ABI)	C14 (1) -2
7	呼吸器 1	呼吸器系の解剖、生理、呼吸機能検査	C14 (1) -2
8	呼吸器 2	血液ガス分析と酸塩基平衡、基礎代謝測定	C14 (1) -2
9	呼吸器 3	胸部レントゲン写真の読み方	C14 (1) -2
10	消化器 1	消化器系の解剖生理、画像診断、エコー、レントゲン、CT、MRI	C14 (1) -2
11	消化器 2	内視鏡、カプセル内視鏡、腹腔鏡	C14 (1) -2
12	神経系 1	神経系の解剖生理、脳 CT、MRI、PET、眼底検査、	C14 (1) -2
13	神経系 2	筋電図、神経伝導速度	C14 (1) -2
14	神経系 3	脳波	C14 (1) -2
15	感覚器	平衡機能検査、オージオメーター、眼底、視野	C14 (1) -2

■ 授業分担者

No.1, 12~15:石橋 賢一、No.2~6:庄司 優、No.7~11:越前 宏俊

■ 成績評価方法

出席 30 %、期末試験 70 % で評価する。

■ その他

臨床検査技師の国家試験を受ける希望者はあらかじめ申し出ること (宿題を課します)